

## 西南学院大学「語学ラボ」(2年生以上) 授業実践報告

単, 艾婷  
西南学院大学言語教育センター : 助教

<https://hdl.handle.net/2324/4822580>

---

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.73-73, 2021-04-30. 雷音学術出版  
バージョン :  
権利関係 : Creative Commons Attribution International

## 1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業「語学ラボ」は、筆者が所属する言語教育センターにおける課外の外国語会話レッスンである。指導される言語は主に英語と中国語であるが、その他フランス語と韓国語も実施されている。学習者の外国語に触れる機会を作るためのもので、単位認定はない。2020年度前期は、担当教員による教材を用意し、同センターのホームページ上に公開する形をとった。

一方で、後期はオンライン(WebexまたはZoomを使用)で実施することが求められた。受講対象学生は、マイクとカメラをONにしての参加が条件となっている。事前調査では、学習者が中国語圏を旅する際の日常会話を練習したいという要望があった。そこで、以下のようなコース内容を実施した。

・目的:中国語圏を旅する際に遭遇する場面をピックアップし、短くて応用が効く表現を身につける。

・対象:中国語学習歴1年以上の学生

・時間:60分間 × 8回(週1回)

・内容: 第1回「オリエンテーション」

第2回「機内で」

第3回「銀行での両替」

第4回「宿泊」

第5回「食事」

第6回「道を尋ねる」

第7回「買い物」

第8回「発表会」

今回応募した受講者は、二年生1人、三年生2人、四年生1人の計4人であった。毎回授業の流れは次の示す通りである。

① ウォーミングアップおよび前回の復習を行う(10分間)。

例えば、「今朝何を食べましたか」「先週末は何をしましたか」など中国語でのやり取りをしてから、前回の内容をおさらいする。

② 今回の学習、関連場面の語彙と会話の学習を行う(30分間)。

「機内」「両替」「宿泊」「食事」「道を尋ねる」「買い物」といった旅行する際に頻繁に遭遇する場面を取り上げ、実用的な語彙とフレーズを中心に紹介した。

③ 会話の練習・発表を行う(20分間)。

②で学習した語彙と会話の応用編として、実際のメニューを使って自分が食べたいものを注文したり、上海の地下鉄路線図を使って行きたいところを尋ねたりする会話を練習し、発表を行った。

最後の8回目では、中国や日本の文化について興味のあることを中国語でプレゼンテーションを実施した。受講生が選んだテーマは、中国のドラマや女優、観光地の紹介であった。

## 2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

語学ラボは単位認定がないが、受講生がほぼ欠席なく毎回出席し、真面目に取り組んでいたため、スケジュールが滞りなく予定通りに進んだ。受講生から、「通常授業より短いですが、一時間ちょうどよく集中できた」「リアルタイムで中国語の会話ができて嬉しい」との声があった。また、授業内容に関しては、「今まで日常会話など使えるものばかりでとても為になった」「関連場面の語彙がたくさん知って嬉しかった」などのコメントが寄せられ、やりがいを感じた。今後、場面設定をより増やした会話練習や、中国語圏旅行計画の作成などを取り入れた活動も工夫する必要があると考えられる。